

教科	科目名	学年	単位数	必修 選択
数学	数学演習基礎	3	2	文系選択

到達目標	<p>数学 I・A で履修した内容を再度演習すること、数学の教養問題に取り組むことを通して、十分な数学的な基礎知識をつける。</p> <p>また、数学の見方や考え方のよさを認識し、より幅広い視野で社会生活が送れる能力を身につける。</p>
-------------	---

年間スケジュール

期間	単元・項目名・実施内容など	受講に対してのアドバイスなど	備考
1学期中間	第1章 数と式	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な問題を解くにあたっての基本的な計算能力を確実に身につける。 その際、もっとも大切なことは、スピードと確実性であるが、それを身に付けさせるため、反復練習を十分行う。 命題の真偽・必要条件十分条件と集合の関係を関連づけて理解を深める。 	
1学期期末	第2章 2次関数 第3章 図形と計量	<ul style="list-style-type: none"> グラフをイメージすることの重要性を強調し、常にグラフをイメージして問題を考える習慣をつける。 公式を自由自在に扱えるよう、基本的問題を何度も反復練習する。その際、必ず図を書く習慣を身に付ける。 三角比について基礎的なことを復習する。 	
2学期中間	第4章 データの分析 第5章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> データの分析について基礎的なことを復習する。 基本的な数え上げのパターンを基本的な問題の反復練習によって十分理解する。その際、重要なことは、場合分けであることを理解する。 確率を考える際の基本を理解し、後は反復練習で、自信を付ける。 	
2学期期末	第6章 整数の性質 第7章 図形の性質 数学 I・A のまとめ 基礎問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 整数の性質について基礎的なことを復習する。 図形を考える面白さは、「ひらめき」によって、一瞬にして問題の本質が明らかになるところにあるが、その、「ひらめき」を産むための基礎となる考え方をマスターする。やはり、基本的な問題の反復練習が大切である。 	
学年末	基礎問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 今まで勉強してきたことを組み合わせることにより、基礎問題は、必ず解けることを理解させ、自信をもって問題に取り組むことができるようにする。 将来の教養問題には数学の問題が出題されることもあり、高校の数学についての基礎的な実力が必要であることを確認する。 理解できない分野を発見し、それを補充する。 	

評価方法と 評価のポイント	<p>評価は「関心・意欲・態度・努力」「数学的な見方考え方」「表現力」「知識・理解度」の4つの観点に基づいて、平素の学習意欲・態度、出席状況、ノート点検、定期考査等によって行う。</p>
--------------------------	---

教科からのアドバイス

数学 I・A について再度復習し、教養問題にも取り組み、それを通して身につけた実力として今後の生活に役立てて欲しい。